

第8章 弘前大学創立70周年記念事業

2019年5月31日、弘前大学は創立70周年を迎えた。本学はこれを記念し、「弘前大学創立70周年記念事業運営委員会及び実行委員会」を組織し、以下のような事業を実施することとした。事業の実施にあたっては同運営委員会のもとに実施事業に対する各専門委員会を設置し、記念事業の検討を進めた。また、記念事業を実施するため、「弘前大学創立70周年記念事業後援会（遠藤正彦会長）」の多大な支援を得た。

①弘前大学創立70周年記念式典等祝賀行事の開催

記念式典及び記念祝賀会を同年6月1日（土）に開催する。また、記念演奏会及び記念講演会も開催する。

②「弘前大学創立70周年記念小公園」の整備

本学の学生教職員はもとより、市民が幾度も足を運び、本学に親しんでもらえるような安らぎの空間作りを目的とした記念小公園の整備を行った。（詳細は後述）

③国際交流基金の設立

学生交流支援及び国際交流協定締結大学等との交流促進を目的として国際交流基金を設置し、本学学生の留学に係る渡航費用の一部助成及び国際交流協定締結大学をはじめとした海外研究機関との交流促進に係る費用の一部助成等を行う。

④学生参加事業

記念式典運営に教職員と共に学生も参加するほか、主なものとして次のような学生参加事業等を予定している。

- ・弘前大学創立70周年記念第19回総合文化祭
- ・弘前大学創立70周年記念学生シンポジウム 等

⑤『弘前大学七十年史』編纂事業

『弘前大学七十年史 通史・資料編』（2019年6月刊行）は、『弘前大学六十年史 通史・資料編』の補遺版として、弘前大学出版会から出版し、併せて弘前大学学術情報リポジトリで公開予定。

⑥弘前大学創立70周年記念リレー学術講演会「過去・現在・未来への創造」の開催

本学教員によるリレー形式の講演会を同年4月20日（土）から9月14日（土）までの期間に計5回にわたり開催予定。

弘前大学創立70周年記念小公園整備

○趣旨・目的

文京町キャンパス内の旧制官立弘前高等学校外国人教師館（以下「外国人教師館」という。）周辺エリアを、70周年記念事業の一環として小公園整備を実施することとした。整備の考え方は、本学のスローガンである「世界に発信し、地域と共に創造する」大学の姿を踏襲し、「人々が訪れやすく、居心地がよく、再度来訪したくなる空間づくり」を目指し、地域の方々、学生・教職員らが集い、語り、交流を深めることを目的とするものである。

○整備方針

具体的な実施項目と考え方は、以下のとおり。

①記念碑・像

・70周年の記念として時間が経過しても色あせず大学の歴史を刻めるものを選定。

②スロープ（バリアフリーへの対応と小公園への誘導）

・キャンパス境界に設置されている囲障（コンクリート塀、手すり）と調和するデザインを採用するとともに、キャンパス内外の高低差を緩和し、小公園の眺望の広がりを演出。

・県道側からの見通しを効かせ小公園、外国人教師館の存在を明らかにする。

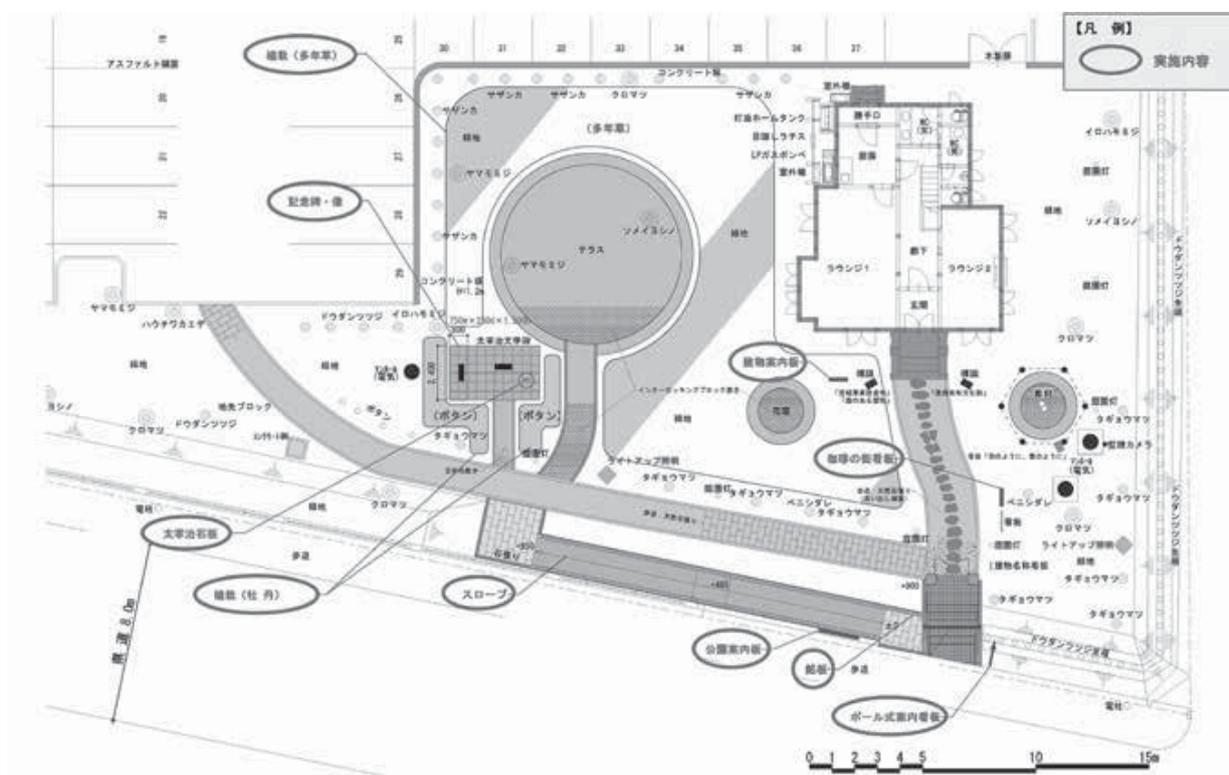
- ・バリアフリー対策を図ることで、地域の方々等を小公園へ呼び込み活用いただくことで交流の場としての効果を期待。

③見どころのある植栽

- ・テラス、外国人教師館付近を中心に、春以降次々と開花するように様々な樹種（多年草）を選定し、季節ごとに見どころのある憩いと安らぎのキャンパスを創出し、地域の方々に親しんでもらえる屋外空間の形成に繋げる。
- ・地域的・歴史的背景を考慮し、弘前藩、津軽藩主の家紋にもなった牡丹を記念碑・像の周囲に植栽。
- ・文京町キャンパスの交流の中心の場となる学生会館広場に記念植樹（エゴノキ）を植栽し、憩いの空間を演出。

④記念小公園内の案内板設置

- ・記念小公園のあり方（公園設置の意義、太宰治（津島修治）と弘前大学の関係）を示し、施設紹介とともに登録有形文化財である外国人教師館の歴史的背景・文化的価値の情報を発信。



小公園整備案

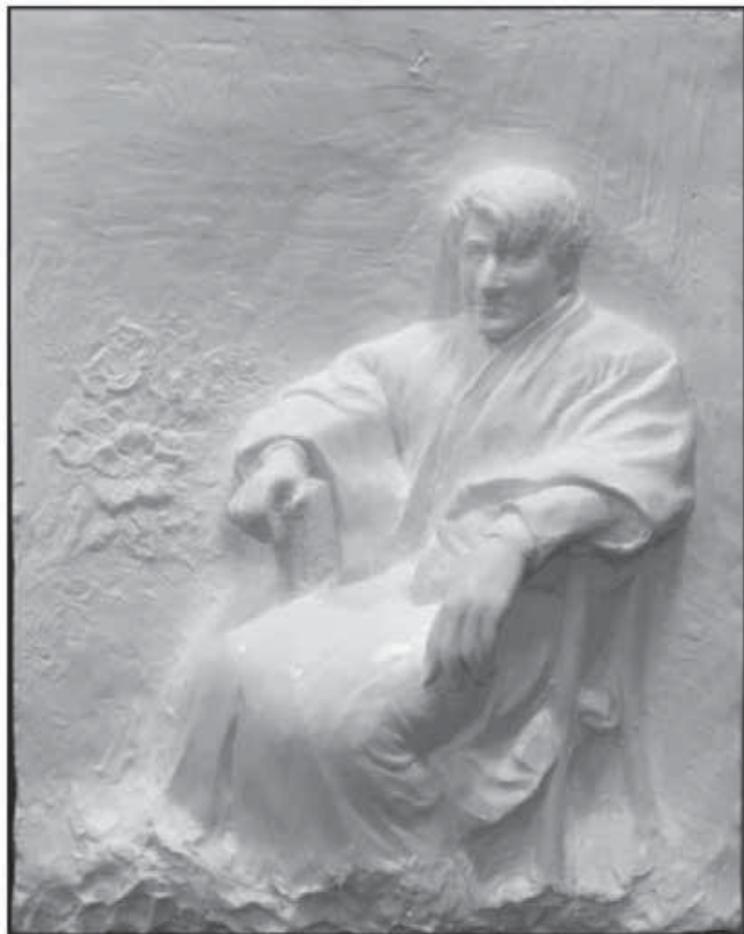
- ・外国人教師館内に出店している「弘大カフェ」及び弘前市と関わりのあるコーヒーとの歴史的背景を紹介。

○太宰治記念碑（記念碑・像）

60周年記念事業で設置された太宰治文学碑に加え、70周年記念事業においても太宰治の記念碑・像（レリーフ）を作成・建立することとした。

このレリーフは、旧制官立弘前高等学校に在学中、寄宿先である藤田豊三郎方（現「太宰治まなびの家」）で撮影された、くつろいだ姿の津島修治（太宰治）の写真に基づいている。弘前高校在学時の太宰は、尊敬する芥川龍之介の死、花柳界への出入り、左翼的思潮との出会いによる葛藤などを経験しながら、作家になることを目指して創作に取り組んでいた。レリーフの背景には太宰治の小説「桜桃」にちなみ、桜桃の花がデザインされている。

記念碑（石碑）には、このブロンズ製のレリーフを埋め込み、碑文は、「や



制作段階の
津島修治(太宰治)のレリーフ(石膏)
教育学部 塚本悦雄教授作

さしくて、かなしくて、をかしくて、他に何が要るのでせう。」を採用した。
(出典：「他人に語る」『太宰治全集』第10巻・101頁（筑摩書房）)

○記念植樹

70周年記念事業の一環として、2018年（平成30）11月13日（火）に、文京町キャンパスの大学会館広場において記念植樹式を挙行了た。

秋晴れのなか、学長、理事、病院長ほか各部局長等多くの職員が出席し、和やかな雰囲気の中行われた。植樹された「エゴノキ」は、毎年5月頃に芳香のある房状の白い花を多数つけることから、記念式典（2019年6月）での開花が期待される。



記念植樹式の様子
佐藤敬学長の祝辞

エゴノキについて

記念樹の選定に際しては、シンボルツリーとしてふさわしい、弘前の気候にあう、比較的手入れが楽、あまり巨木になりすぎない、といった点を考慮した。そうした中でエゴノキが、北海道から九州・沖縄までの日本全国で見られる、樹形がきれいで大きくなっても高さ10m程度である、桜の季節が終わったあとにかわいらしい白い花を多数つけ楽しめる、などのことから、今回の記念樹として選定された。

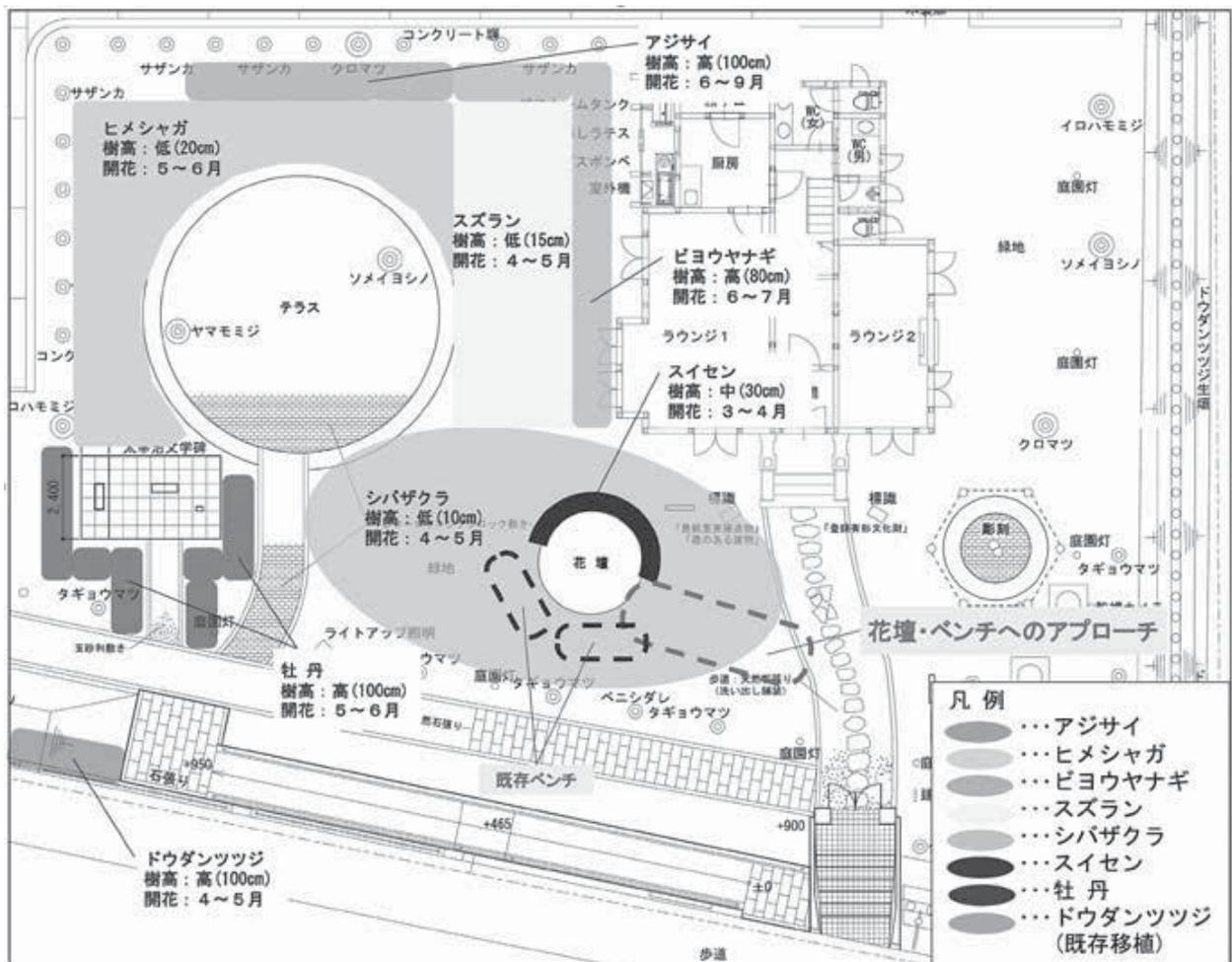
近代短歌や俳句で詠われた例として、土屋文明（1925年）ふゆくさ「道の上にあごの白花ちりしきて豆蒔鳥は昨日よりなく」、山口青邨（1934年）

雑草園「えごの花遠くへ流れ来てをりぬ」がある。また、エゴノキは古代住居跡から種子が出土することからも古代から日本人に馴染み深い植物であったといえる。

○多年草植栽

70周年記念小公園内のテラス、外国人教師館付近を中心に、春以降次々と開花、見所のある庭園を目指し、様々な多年草等を植栽した。植栽にあたっては、植栽エリアの日当たり状況を調査（2018年（平成30）8月中旬の7～18時）のうえ、「日当たり良好」、「半日陰」、「常に日陰」に分類、また、弘前の気候を考慮し耐寒性のあるもの、管理しやすい樹種を検討のうえ、状況に適した多年草を以下のとおり選定した。

- ①アジサイ（日陰可）、②ヒメシャガ（日陰可）、③ビヨウヤナギ（半日陰）、④スズラン（日陰可）、⑤シバザクラ（日当たり）、⑥スイセン（日当たり）、



植栽配置図

⑦牡丹（日当たり）、⑧ドウダンツツジ（日当たり）

植栽の配置に関しては、テラスを中心として、テラスからの眺望、記念碑付近からの眺望、弘大カフェからの眺望等を考慮し、観賞に際して死角が生じないように配置・樹高を検討した。さらに、同種の多年草を群生させ見栄えにも配慮した。

（総務部）